

看護における言葉の影響

2年5組25番 氏名 對馬 心温

アブストラクト

看護にはコミュニケーションが大切だとされ、実際に私が幼い頃に行った病院の看護師の方の言葉が印象的だった。この経験から私は言葉が患者の心理に影響すると考えた。そして今回の調査では看護師の言葉は大いに影響することがわかった。

はじめに

幼い頃の看護師の対応が印象的であり、看護師に求められる態度について研究していくうちに言葉遣いを意識することでコミュニケーションをより有効的に取ることができると思う。そのため、InstagramなどのSNSを活用し看護における言葉の影響について探究していく。

1 調査

(1)調査目的

言葉は患者と看護師のコミュニケーションに影響を及ぼし、看護師の言葉は患者に安心感を与えることができるのか。

(2)調査方法

SNSを活用し、Instagramでアンケートを取る。

アンケート内容は、

- ①入院したことはあるか。
- ②看護師にかけられた言葉で印象的なのはポジティブな言葉か、ネガティブな言葉か。
- ③どんな言葉をかけられたか。

2 調査結果

アンケートを取ったところ①の回答で「ある」と答えた人が全体の17%、「ない」と答えた人が83%という結果が出た。

②の回答では全員が「ポジティブな言葉」と回答してくれた。

③の回答では「大丈夫」や「頑張った」、「昨日より良くなっていますよ。」「困ったことがあったら

いつでもナースコールを押してね。」などのプラスの言葉が多く、一般的に聞くと安心するような言葉と言葉遣いが多いとわかった。

3 考察

上記の結果から言葉は患者と看護師のコミュニケーションに影響を及ぼし、看護師の言葉は患者に安心感を与える。それに加えて、より良い関係を構築することにも影響があると考ええる。

4 まとめと結論

最終的に看護師の言葉や世間話は患者に安心感を与え、コミュニケーションを取る上で有効的になる。また、言葉全体としてプラスの言葉でもマイナスな言葉でも患者の記憶に残りやすいと考えた。また、看護師に必要な「理想とされる看護」についても考えることができた。

5 課題

プラスの言葉だけでなく、マイナスの言葉との関係という面でも探究を進めていきたい。

6 謝辞

この研究は北海道函館西高等学校看護ゼミ担当教員の補助を受けて実施したものである。